

国立民族学博物館

企画展

人間文化研究機構・連携展示

人間文化研究機構・連携研究



水

Water and Vessels From Cupped Hands to the Planet

手のひらから 地球まで

の



2010年3月25日(木) ~ 6月22日(火)

国立民族学博物館 企画展示場A

開館時間 / 10:00 ~ 17:00 (入館 16:30 まで)

休館日 / 水曜日 (水曜日が祝日の場合は、翌日が休館)

主催：人間文化研究機構
国立民族学博物館
総合地球環境学研究所

協力：国文学研究資料館 鹿児島純心女子大学附属博物館
天理大学附属天理参考館 東海大学海洋学部
滋賀医科大学文化人類学教室 愛媛県西条市
鮎河川環境管理財団 日本ミネラルウォーター協会

後援：大阪府吹田市
吹田市教育委員会



人間文化研究機構



国立民族学博物館



総合地球環境学研究所

水の器

手のひらから地球まで

手にした一杯の水。
そこから想像を膨らませていこう。

私たちは、のどを潤すために、器に入った飲み水を口元に運ぶが、手にした一杯の水は、どこから来るのだろう。

日本ならば、水道の蛇口やペットボトルから来ることが多いだろうが、場所が変われば、川や井戸から汲んできた水や、雨水をためた甕からの水かもしれない。

このように、人は、地域の環境に応じて、地下水や雨水、川などを水源とし、井戸や水汲み場、水道栓などを取水口にして水を利用してきた。水源から口元へと水がたどる道程で、人はさまざまな器を使い分けながら水と関

わってきた。この水の道程は、身近な器、人工の器、自然の器と、多様な器で構成されており、水の器は、生態環境と人の暮らしを媒介している。

人は、水なしでは生きていけないし、器なしには水を利用できない。器があるからこそ、水を蓄えることも分けることも可能になる。すなわち水の器は、人と人の関係をつなぐものとなる。時として人は、器の水に特別な意図を込め、またさまざまな意味を汲みあげる。

人と自然、水と暮らし、人と人の関係を映すのが水の器である。こうした器を通して、水の問題を考えようと企画した今回の展示では、国立民族学博物館が所蔵する資料と総合地球環境学研究所での人と水の研究成果を踏まえて、世界各地の多様な水の器を紹介する。「器」の字形に見立てて、「1. 生活世界の身近な器」「2. 多様な水源」「3. 水の器・地球」「4. 水のペットボトル」の4つのコーナーに分

けて水の器を考えることにした。手元の水から水源へと遡り、水源に水をもたらす地球のメカニズムへ、そして手元の水へと戻ってくるように、水の道程に沿って4つのコーナーをつなげている。

近年、「水の危機」が叫ばれ、水資源が地球環境問題として盛んに議論されるようになった。水に恵まれた日本にいれば、水の欠乏や汚染が深刻化する地域の実状は想像しにくいかもしれ

ない。だからこそ今、私たち誰もが手にする一杯の水から、暮らし、地域、世界、地球とのつながりへと想像を膨らませてみたい。

誰もが必要とする水が、どこでも同じように得られるわけではないからこそ、人びとが地域ごとに水との多様な関係を育んできたこと、そして、暮らしの中から新たな関わりを生み出していくことを、世界各地の多様な「水の器」は教えてくれるのだから。



シュラウタ祭式具（聖水入れ容器）インド

水差し スーダン

ひしゃく タイ

湯沸かし器（サモワール）トルコ

水筒（栓付）ナミビア

水筒 コロンビア

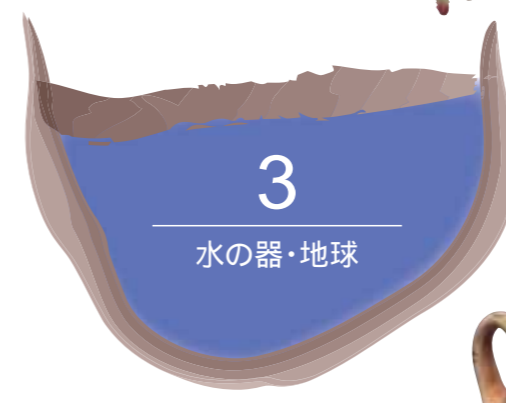
バケツ インド

つるべ 中国



水を表現した東巴（トンパ）文字

人間は、地域の環境に応じて地下水や雨水、河川などを水源として利用してきた。また、水源から生活世界へと水を引き込むために、貯水池、ダム、井戸や水路などの大規模な水の器を作り出してきた。その一方で、人びとは、水の恵みをもたらす水源に畏敬を抱き、神話や伝承、儀礼を発達させてきた。水源は人間にとって不可視の自然と現実の世界をむすぶ接点となる。



地球は、地表の約7割を占める海洋と水蒸気を含む大気に覆われた「水の惑星」である。しかし、地球が湛える水のうち、人間が使える水はほんのわずかである。しかも、陸地にある水も地下水も、まんべんなくあるのではなく、「あるところ・ないところ」、「あるとき・ないとき」がある。これは、大気中の水蒸気を含めて、地球の水が大きな流れの中にあるため、この大きな動きを地球の「水循環」という。



地球に比べると地表の水の総量は小さな水玉。（本図は宇宙航空研究開発機構（JAXA）提供の地球の写真「みどり2号がとらえた地球（合成画像）3」と水玉を並べたイメージ画像です。）



壺 アメリカ



聖水用容器 ウクライナ



飲料水用 冷却壺 モロッコ



貝製容器 カロリン諸島ヤップ島



ひしゃく 韓国



水を掬う（撮影：梅棹忠夫、タイ）

人間は、水を確保するために、手のひらにかわるさまざまな器を作り出してきた。人びとは地域の環境に応じた水源を利用し、「汲む」「運ぶ」「ためる」「注ぐ」「掬う」ための器を使い分けながら、水源から水を口元まで運ぶ。口元から取水口へと水の道程を遡りつつ、生活世界における身近な器の世界を、国立民族学博物館所蔵資料から紹介する。世界各地の水の器には、地域の自然環境や技術とともに文化や社会が投影されている。



いまや、どこに出かけても出会えるボトル入りの水は、現代社会を象徴する一品ともいえるだろう。そこで、実際に、世界各地からペットボトルを集めてみたが、中身が「水」ゆえに、その差を伝えることはとても難しく、どの国も「水」の違いをどう見せるのかに苦労していることがうかがえる。同時に、この新しい器を使いこなすためのさまざまな工夫がみられ、ペットボトルをきっかけに新たな人と水の関わりが生み出されている。



ペットボトル

水がつなげる世界 水でひろがる世界

探してみよう！水の道具

～みんなく・水のオリエンテーリング～

「水のオリエンテーリング・マップ」片手に、常設展示場をまわって、水の道具を探してみよう！ガイドつきオリエンテーリングも予定。

水のことをもっと知ろう

【3月】

連携研究「人と水」フォーラム「水のペットボトルから見る地域と文化」

日時：3月28日（日）13:30～16:00

対象：小学校高学年以上、当日自由参加

13:30～15:00 第1部 公開シンポジウム「器との関わりから見る文化」

新しい器ペットボトル、新しい水ミネラルウォーターは、暮らしの中どのように受け入れられ、どのように利用されているのでしょうか。現代社会を代表する「水の器」を通して、水と人間の関わりを見直します。

15:10～16:00 第2部 地球研・市民連携ワークショップ「水の形から見る地域」

水の形とは何だろうか？水質分析で明らかになる「水の形」やタイプの違いなど、科学分析から見えてくる水の地域性について解説します。市民連携の水質鑑定団に参加して、「日々飲む水の形」を調べてみませんか？

【4月】

水のワークショップ「水の学習プログラム“WET”」（河川環境管理財団）

対象：小学生、親子連れ歓迎、定員20組（要事前申し込み・応募者多数の場合は抽選）

ゲーム形式で水や自然環境の大切さを学びます。5月GWにも開催。

【5月】

水のワークショップ「海の不思議・水の不思議」（東海大学海洋学部）

日時：5月22日（土）13:30～15:00

対象：小学校高学年以上、定員30人（要事前申し込み・応募者多数の場合は抽選）

地球の水の97.5%は海水、1時間目は「海洋」についての解説、2時間目は実験を通して海の水の不思議を学びます。

水のワークショップ「海の不思議・水の不思議」（西条市・東海大学海洋学部の連携）

日時：5月30日（日）13:30～15:00

対象：小学校高学年以上、当日自由参加

地下水盆という水環境を活かしたまちづくりを進める愛媛県西条市、1時間目は市の水環境と暮らし、2時間目は地下水の水質調査を紹介します。

【6月】

地球研・市民連携ワークショップ「びっくり！あなたの水もミネラルウォーター」

日時：6月12日（土）13:30～15:00

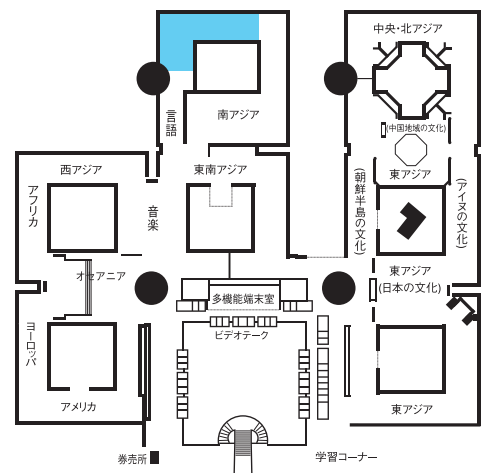
対象：小学校高学年以上、当日自由参加

水質鑑定団メンバーが集めた水の分析結果を解説します。

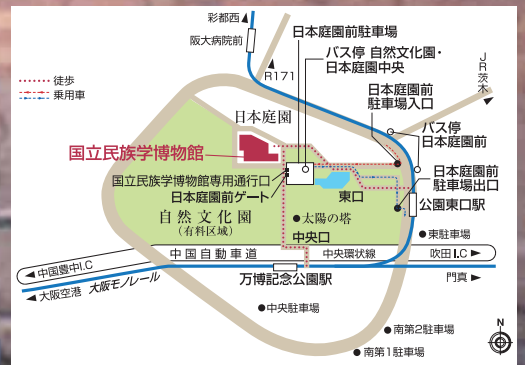
以上のイベントの詳細や申し込み方法は、民博ホームページでお知らせします。ワークショップに関するお問い合わせは、

- ・国立民族学博物館 情報企画係 TEL：06-6878-8532
- ・受付時間：平日（月～金）9:00～17:00

企画展「水の器」会場



湧き水を利用した水場と水汲み（撮影：田辺繁治、ラオス、ルアン・プラバーン県パーン・キウチャルン村）



開館時間：午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日：水曜日（水曜日が祝日の場合は、翌日が休館）

観覧料：一般420円（350円）、高校・大学生250円（200円）、小・中学生110円（90円）

（ ）は、20名以上の団体料金、大学等*の授業でご利用の方、3ヶ月以内のリピーター、満65歳以上の方の割引料金（要証明書等）

*大学等は、短大、大学、大学院、専修学校の専門課程

無料観覧日：5月5日（水・祝）、音楽の祭日（6月予定）

自然文化園（有料区域）を通してこられる場合、自然文化園各ゲート脇の券売機で当館（国立民族学博物館）の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。障害者手帳をお持ちの方は付添者1名とともに、無料で観覧できます。また、毎週土曜日は、小学生・中学生・高校生は無料で観覧できます。ただし、自然文化園を通行される場合は、同園の入園料が別途必要です。

交通のご案内

*国立民族学博物館（みんなく）は大阪・千里の万博記念公園内にあります。「みんなく」とは大学共同利用機関法人 人間文化研究機構国立民族学博物館の愛称です。大阪モノレール

「万博記念公園駅」下車徒歩約15分

（展示場をご覧になる方は、みんなくの観覧券をゲートにてお買い求めになれば無料で通行できます。）

「公園東口駅」下車徒歩約15分（「公園東口駅」からは自然文化園を通行せずに来館できます。）

バス

〔近鉄バス〕（阪大本部前行き）阪急茨木市駅から約20分、

JR茨木駅から約10分「日本庭園前」下車、徒歩約15分

〔阪急バス〕（万博記念公園駅経由千里中央行き）

阪急茨木市駅から約20分、JR茨木駅から約10分、

「自然文化園・日本庭園中央」下車、徒歩約5分

タクシー

万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れることができます。下車、徒歩約5分

自動車

駐車施設が無いため「みんなく」への車の乗り入れはできません。万博記念公園の駐車場（有料）をご利用願います。最寄り「日本庭園前駐車場」から徒歩約5分

*「日本庭園前駐車場」をご利用の方は、「日本庭園前ゲート」横にある国立民族学博物館専用通行口をお通りください。

お問い合わせ先

国立民族学博物館 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号

TEL:06-6876-2151 <http://www.minpaku.ac.jp/>



国立民族学博物館